

講師メッセージ

【土屋先生より】 今までの歯科治療は、十分に咬み合せを改善されない状態を「こんなもんだ！」と患者様に押し付ける傾向が多かったように思います。調整ばかりで経営収支を悪くしている義歯を入れていませんか？本来は義歯でもしっかり噛めることは当然であり、収支効率の高いものの筈です。歯科医が正確で簡単に咬める義歯を製作することによって、個々の患者様の健康を維持・増進していくこと(個別医療デザイン)が生き残りのひとつの手段ではないでしょうか。

本講演では、簡単な術式で患者様に即座に感動を与え、ホームドクターとして患者確保することに繋がるやり方について、更にはコンサルをしなくても自然に医院の収入UPにつながるKey Pointを、ラボワークも含めお話をさせていただきます。

さあ皆さん「歯合せ創造科」になって患者様と一緒に「シアワセ！」になりましょう。

【多田先生より】欠損部の補綴方法としては欠損状態により可撤性義歯・固定性のブリッジ・インプラント等の設計がありますが、種々の事情によってパーシャルデンチャーを選択せざるを得ないケースも多く存在します。

現在、リジットサポートの理論に沿って、動きの最小化されたパーシャルデンチャーに最も適した補綴としては、テレスコープや非緩圧型のアタッチメントですが、何らかの理由でこれらのシステムが使用できない場合には維持装置にクラスプを用いた義歯しかありません。維持装置にクラスプを用いた義歯でリジットサポートを成立させるためのキーポイントとしては支台装置の設計と各種の適合精度の向上が必要不可欠といえます。

今回のジョイント講演会では維持装置にクラスプを用いたパーシャルデンチャーに必要とされる「支台歯設計」と「各種適合精度の向上」に的を絞り、明日からの臨床に即活用していただだけ、患者様にも喜ばれるパーシャルデンチャーを得るための各種キーポイントをご紹介します。